



事業実施報告書

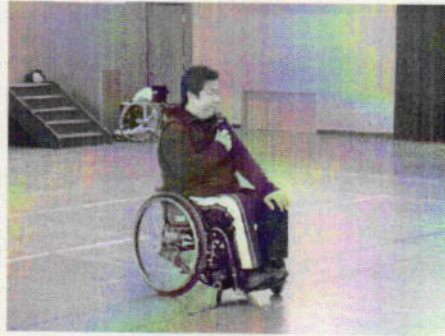
- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都市 】

1 実践テーマ	【 II・III・V 】
2 実施対象者	京都市立祥栄小学校 5学年（72名）
3 展開の形式	<p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（ ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ 特別活動「人権学習」 ）</p> <p>（2）地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 （ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子を使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障がいをもった方たちと共生する社会について考える。 ・車椅子バスケット選手の方の話を聞いたり、競技用車椅子の使用体験をしたりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	<p>（1）車椅子の乗り方・介助の方法について知り、使用者がどのような苦労や工夫をしているか知る。</p> <p>（2）車椅子の体験を行い、生活する上ではどのような問題があるか予想し、調べる。</p> <p>（3）車椅子バスケットというスポーツについて知り、競技用車椅子で走行体験・車椅子バスケット体験をする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>



(4) 車椅子バスケットの競技者から話を聞き、誰もが気持ちよく暮らせる社会の在り方について考える。



(5) 車椅子バスケットの競技者からの講話や体験を通して、人間の強さ・生きがい・仲間・豊かな生活等について考える。友達との意見交流やこれまでの学習を通して、誰もが気持ちよく生きられる社会の実現に向けて自分の考えをもち、実践していこうという心情を養う。

6 主な成果

講師の2人の方は、交通事故が原因で車椅子での生活を余儀なくされた。足が動かなくなったという現実を受け入れること、リハビリのつらさ、両親や友だちのはげましへの感謝等の話に、子どもたちは感銘を受けていた。最後に、事故にあわないようにみんなに気を付けてほしい、違法駐輪やごみのポイ捨て・つばはき等をしないでほしいという話があった。車椅子を使う人にとって、捨ててあるガムを踏むと直接手で触れてしまうことになり、大変だということであった。

みんなが社会で大切にされ、共に生きていくために今まで気づかなかった視点があることを知ることができた。また、学校の中で調べ学習をするだけでなく、実際に経験されている方の話には説得力があり、ふれあうことで実感を伴う障がいについての理解ができた。

～児童の感想文より～

・車椅子バスケットを体験して、楽しかったです。試合をしてみて、車椅子ではうまく動けないと思いました。選手の方は、とても速く動いていて、正確なパスやシュートをしていて、すごいと思いました。

・車椅子で移動するのは、簡単なことじゃないということが、実際に乗ってみてわかりました。道にゴミやガラスが落ちてるとあぶないということが分かったので、ゴミのポイ捨てなど絶対にしません。

・車椅子を動かすのは、私が思っている以上に大変でした。だから、これからは車椅子に乗っている人を助けたいと思います。

・選手の方の話を聞いて、体が不自由になったりしても、前向きに生き、なかまと一緒に頑張ってきたことがわかりました。私も選手の方のように前向きに生きていきたいです。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ いっぱい苦労したんだと思いました。でも、苦しいだけでなく楽しいこともあったそうです。周りの人でプラスの力に変えられたという話が、すごいと思いました。ほくも、そのプラスをまねしたいです。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に車椅子の体験や介助体験を行い、課題意識をもって調べ学習を行った。 ・ 車椅子バスケットのルールやチームについても事前に調べた。 ・ 子どもたちの活動を多く取り入れ、体験を伴った確かな理解へとつなげられるような授業内容を工夫した。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車椅子バスケットの試合体験をもう少し長い時間でできれば、全員が体験できた。そのためにも、事前の打ち合わせを充実させる必要がある。 ・ 今後は、保護者や地域の方にも参観してもらい、学習内容の周知や啓発活動もしていきたい。 ・ 今年度だけの取組とするのではなく、継続的に取り組めるように予算の確保をしていきたい。
9 来年度以降 の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校では、1 年～6 年の人権教育の一環として、毎年 5 年が車椅子体験を行う学習計画を立てている。来年度も、車椅子バスケットの選手に来ていただき、講話を聞いたり、車椅子バスケットの体験をしたりして学習を深めていきたい。また、車椅子駅伝、ブラインドサッカー等、様々な競技の方のお話も聞けるように広げていきたい。